

5. 社会贡献

Contribution

【1】 地域課題をテーマとした公開講座

本学の有する専門的かつ幅広い知的財産を活用して、社会の多様なニーズに対応した教育機会の提供を推進し、社会人の学び直しや地域の分野別リーダー的人材の育成等、地域課題をテーマとした公開講座を実施した。主な実施事業は以下のとおり。

■ 平成28年度弘前大学公開講座・講演会の主な実施事業一覧

| 事業名 | 実施場所 | 対象 |
|---|-------|--|
| 特別企画・市民公開講座 「医療から介護への境目のない連携をめざして」 | 弘前市 | 一般市民 |
| 平成28年度弘前大学医学研究科公開講座 「お口の健康から全身の健康へ」 | 弘前市 | 一般市民、学生、教職員 |
| 市民公開講座「減塩はアンチエイジング」 | 弘前市 | 一般市民、学生等 |
| 第10回弘大病院がん診療市民公開講座 | 弘前市 | 一般市民 |
| 津軽（西北五）地域における医療の現状及び今後の課題 | 五所川原市 | 一般市民 |
| 地域課題・生活課題に取り組む人材育成を図る（全3回） | つがる市 | 一般市民 |
| 公開講座「リンゴを科学する」 | 平川市 | リンゴ産業にかかわる方、一般市民 |
| 平成28年度弘前大学医学研究科公開講座 「健康・医療講演会」 | 大鰐町 | 一般市民、学生、教職員 |
| 県民公開講座 腎臓を大切に健康長寿を実現しよう | 青森市 | 一般市民 |
| 青森県の縄文遺跡と世界遺産（全2回） | 三沢市 | 一般市民 |
| 『福祉のまち』づくりをめざして（全2回） | 七戸町 | 民生委員、一般市民 |
| 市民公開講座 「第7の栄養素 ファイトケミカルって何？」 | むつ市 | 一般市民 |
| 市民公開講座 乳がんと大腸がんの基礎知識と最新治療 | むつ市 | 一般市民 |
| 「地域包括ケアの時代の家族介護を考える」 | むつ市 | 市内高校生、一般市民 |
| むつサテライトキャンパス食育健康講座（全4回） | むつ市 | 一般市民 |
| むつサテライトキャンパス高校生向け講座 「くらしと地域～地域を考える視点を養う～」（全7回） | むつ市 | むつ市内高校生、一般市民 |
| むつサテライトキャンパス経営者向け講座 ～収益性を基礎とした入門経営～（全15回） | むつ市 | 若手経営者、金融機関若手従業員、一般市民 |
| 「文化ボランティアガイドの育成を目指して」 | むつ市 | 水源地ボランティアガイド希望者 その他ボランティア活動に興味・感心のある者 |
| 白神自然環境人材育成講座 22回/3講座 | 弘前市 | 高等学校を卒業した者または同等以上の学力を有すると認められる者 |
| 地域おこし協力隊研修会（全5回） | 弘前市 | 自治体職員、地域おこし協力隊（近県も可） 地域の方、本学の教職員・学生 |
| 弘前市公民館関係職員研修会（全3回） | 弘前市 | 公民館職員、生涯学習担当職員、社会教育委員 |

| 事業名 | 実施場所 | 対象 |
|--|------|--|
| 子どもの育ちを考えるゼミナール 弘前 (全5回) | 弘前市 | 子どもに携わる職業(教員・保育者・児童厚生員等)実践者(子ども会・NPO等)、子どもの育ち・学校外教育に関心のある方 |
| 当たり前からの開放!!世界から見た日本の子育て(全2回) | 中泊町 | 中里、小泊地区で育児中の保護者 |
| 食育・健康講座(全8回) | 八戸市 | 県南地域に居住・勤務されている調理や加工に興味・関心のある方 |
| 平成28年革新的なものづくり企業連携交流サロン テーマ:水産加工業(全2回) | 八戸市 | 八戸市内外の企業、一般市民、学生、大学等 |
| イノベーション経営戦略講座(全12回) | 八戸市 | 中小企業の経営者・管理職 |
| サービスイノベーションセミナー ～IoT時代における新たな「おもてなし」観光サービス戦略～ | 八戸市 | 中小サービス事業者(飲食・ホテル・旅館・ドラッグストア・スーパー・百貨店など) |
| 種差海岸『食』のブランディング研究会(全3回) | 八戸市 | 種差海岸の食堂・民宿事業者 |
| 三沢健康フェア 食育健康セミナー | 三沢市 | 三沢健康フェアにお越しの健康と食育に関心のある方 |



白神自然環境人材育成講座「白神保全論」



白神自然環境人材育成講座「白神観光戦略論」



八戸サテライト「サービスイノベーションセミナー」



八戸サテライト「食育・健康講座」

【2】 履修証明制度等による系統的な地域志向公開講座

弘前大学は、平成28年度後期から、「弘前大学白神自然環境人材育成講座」を開講した。

本講座は、白神山地をはじめとする青森県の自然環境に深い見識を持ち、環境の保全に配慮しながら、自然資源の管理と活用をすることのできる人材の育成を目的としている。

青森県は、世界自然遺産白神山地をはじめ、豊かな自然環境に恵まれている。この豊かな自然環境を、広く世界に、そして次世代に伝えていくためには、自然環境の保全や環境教育活動のできる人材、世界遺産のブランド価値を活用して地域資源を商品化したり、観光客をもてなしたりする観光関連人材、さらに自然環境と共に生きる青森県の未来を創造できる人材が、強く求められている。

白神山地に関連する民間団体の実践知と、弘前大学が有する学術知を融合することで、白神山地をはじめとする青森県の自然環境を保全し、賢く活用し、持続的な地域の発展に寄与することができる人材を育成する。

本講座は、弘前大学の教養科目(96時間)と白神を深く学ぶ特設科目(47時間)を組み合わせた計10科目(143時間)の専門人材育成講座で、白神山地と周辺地域について体系的に学ぶことができる。

また本講座は、弘前大学における履修証明プログラムに関する規程に基づくものであり、120時間以上の履修等の要件を満たした修了者には、履修証明書が発行される。特設科目の約半分が実査とワークショップからなり、実践的に学ぶことが特徴である。

平成28年9月29日(木)、「弘前大学白神自然環境人材育成講座(第一期生)開講式」を実施し、弘前市と周辺市町村在住の20～70代の履修生10名のうち9名が出席した。佐藤敬学長から「2年間の講座を通して、皆さんの生活に新たな側面が生まれ、地域において更に大きな役割を果たしていただければ幸い」との挨拶があった。開講式に引き続き、ガイダンスも行われ、今後の受講に向けた説明に、履修生は熱心に耳を傾けていた。講義は、10月6日(木)から始まり、平成28年度後期は全38時間の授業を開講した。そのなかでも特設科目の「白神観光戦略論」は、専門家による6時間の座学と4時間のフィールドワークから構成されており、履修生はより実践的な内容について学んだ。履修生は2年間をかけて白神について学び、修了後は、弘前大学が実施する白神をテーマとした事業への参画や、地域に新たな価値をもたらすことが期待される。



弘前大学白神自然環境人材育成講座開講式



特設科目「白神観光戦略論」ワークショップ

【3】 地域自治体・企業等と連携による幹部級職員対象の講演会

■ 横山信一参議院議員による講演会「海と陸からの恵み 日本の食の最前線！」 (平成28年4月13日 開催)

平成28年4月13日(水)、北海道新幹線の開業とともに青函連携の深まるなか、国会議員唯一の水産学博士として農林水産大臣政務官をはじめ、長きにわたり道南の基幹産業である水産業の振興などに尽力された横山信一参議院議員を招き、弘前大学創立60周年記念会館コラボ弘大8階八甲田ホールにて、特別講演会「海と陸からの恵み 日本の食の最前線！」を開催した。

本学は三方を海に囲まれた青森県の知の拠点として、水産資源を基にした「食」との関わりのなかで地域を志向した教育・研究・社会貢献を推進しており、本学教職員のみならず、青森県をはじめ県内自治体、商工会議所、銀行、民間企業、一般市民など幅広い分野・職種の関係者約75名が参加し、地域の興味・関心が非常に高く、地域ニーズに合致したテーマであった。

横山参議院議員からは、耕作放棄地や飼料用米等の農業の現状、「攻め」と「守り」の水産基板整備など、具体的事例・データをもとに踏み込んだ専門的内容を分かりやすく講演いただいた。また、日本の政策を踏まえながら、世界規模のマクロ視点から市町村規模のミクロ視点まで、多角的視点による農業・漁業の持続的発展について迫った講演となり、今後の新たな第一次産業の在り方を考察するきっかけとなった。

横山参議院議員の講演後には、佐藤学長ほか数名から質問が飛び交い、特別講演会終了後も会場から人が立ち去ることなく大盛況の講演会となった。



■ オカムラ食品工業社長による講演会「チャンスを活かす 可能性への挑戦」 (平成28年5月12日 開催)

本学教職員及び学生を主な対象として、オカムラ食品工業社長による講演会「チャンスを活かす可能性への挑戦」を、平成28年5月12日(木)に弘前大学創立50周年記念会館みちのくホールにて開催した。

この講演会は、教職員には社会連携や地域貢献にかかるFD・SD事業として、また、学生には地方企業としての経営ノウハウ及びグローバル戦略の見識を深める場として開催された。

講演会には、佐藤学長をはじめ、役員、部局長、教育研究評議員などの幹部職員、今後の地域経済及びグローバル戦略を視野にいたした学生など、約140名が参加した。講演者の岡村恒一株式会社オカムラ食品工業代表取締役からは、地方にありながらもデンマークやベトナムでのサーモン養殖や水産加工などを展開する独自のグローバル戦略、筋子の原材料買い付けが契機となった1980年

代後半のロシアへの海外進出戦略、青森県深浦町での画期的なサーモン養殖など、今後の新たなグローバル経営の展望について、自身のアグレッシブでポジティブな経験を踏まえた説明があった。

講演後は、佐藤学長、大河原社会連携担当理事、学生から、経営者としての社内統制・社員教育、海外販路拡大及びローカライズ手法などの質問が相次いだ。また、今回の講演会では、学生が所有しているスマートフォンから質問事項を入力するシステムを利用した。学生からは、合計81項目もの質問・意見が寄せられ、教職員及び学生の興味・関心が非常に高く、刺激的な講演内容であったことが分かり、講演会は盛況のうちに終了した。



■ 平川市長による講演会「目指す『平川らしさ』～7つの挑戦～」

(平成29年1月31日 開催)

本学幹部級職員を主な対象とした社会連携や地域貢献に関わるFD・SD事業として、青森県平川市の長尾忠行市長による講演会「目指す『平川らしさ』～7つの挑戦～」を、平成29年1月31日(火)に弘前大学創立50周年記念会館岩木ホールにて開催した。

この講演会は、文部科学省「地(知)の拠点整備事業」において、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を一層推進し、地域の再生・活用化の拠点となる大学を形成するため、平成28年6月に連携・協力に関する協定を締結した平川市の施策に対する見識を深めることを目的として開催された。

講演会には、佐藤学長をはじめ、役員、部局長、教育研究評議員などの幹部職員、その他教職員及び学生などの本学関係者、自治体や地方金融機関等の関係者約75名が参加した。

長尾忠行市長からは、本学との連携・協力に関する協定をきっかけに始まった連携調査研究事業をはじめ、第2次平川市長期総合プラン、平川市の「まちの個性」の確立を目指した7つの取組について説明があった。特に「まちの個性」の確立の取組では新エネルギーの地産地消、地元食材の新たな産業創出・6次産業化、インバウンドの戦略的プロモーションと受入環境整備などの独創的な取組が説明され、市民ファーストでの「挑戦」をキーワードに取り上げながら、参加者の興味関心を引き付けた。

また、参加者から多く寄せられた、新エネルギーの地産地消で説明された平川市バイオマス産業都市構想についての質問を受け、木質バイオマスチップや廃材・排水等から抽出したメタンガスによるバイオ発電など、地域循環型社会への挑戦について説明があり、予定していた講演時間を過ぎるなど、大盛況のうちに終了した。



■地域自治体・企業等と連携による幹部級職員対象の講演会一覧（平成26～28年度）

| 年度 | 説明者・講演者 | 題目 |
|--------|--------------------------------|-----------------------------|
| 平成26年度 | 青森県企画政策部企画調整課 課長 秋田 佳紀 氏 | 青森県基本計画～未来を変える挑戦～説明会 |
| 平成26年度 | 青森県観光国際戦略局 次長 高坂 幹 氏 | 青森県の観光国際戦略に係る説明会 |
| 平成26年度 | 弘前市経営戦略部行政経営課 課長 岩崎 隆 氏 | 地域経営が弘前の未来を変える～弘前市経営計画について～ |
| 平成26年度 | 日本銀行青森支店 支店長 山口 智之 氏 | 青森県経済の現状と今後の展望等に係る説明会 |
| 平成26年度 | むつ市 市長 宮下 宗一郎 氏 | むつ市が目指す地方創生 |
| 平成26年度 | 八戸市 市長 小林 眞 氏 | 八戸市のまちづくり |
| 平成27年度 | 青森市 市長 鹿内 博 氏 | 地方創生・人口減少克服に関する青森市の取組み |
| 平成27年度 | 深浦町 町長 吉田 満 氏 | 深浦町が目指す「地方創生」 |
| 平成27年度 | (有)サンマモルワイナリー 代表取締役 北村 良久 氏 | 私のは「地方再生」 |
| 平成27年度 | 株式会社あおり海山 代表取締役 堀内 精二 氏 | ～深浦町発信～ 産業創出による地域活性化に向けて |
| 平成27年度 | 函館市 市長 工藤 壽樹 氏 | 北海道新幹線開業を契機とした新たな青函交流 |
| 平成28年度 | 参議院議員（元農林水産大臣政務官） 横山 信一 氏 | 海と陸からの恵み 日本の食の最前線！ |
| 平成28年度 | 株式会社オカムラ食品工業 代表取締役 岡村 恒一 氏 | チャンスを活かす 可能性への挑戦 |
| 平成28年度 | 平川市 市長 長尾 忠行 氏 | 目指す「平川らしさ」～7つの挑戦～ |

※役職名は当時

【4】グローバル人材育成事業の実施

グローバルな視点で地域の課題を解決できる「グローバル人材」を育成するため、本学と弘前市、商工会議所の三者で設立した「学都ひろさき未来基金」による3事業を展開した。

1. 学生市民等協働プログラム

指導教員のもと、学生と市民・企業人が一体となって海外研修、海外事情調査を行った。平成28年度のプログラムは以下のとおり。

■ 平成28年度 学生市民等協働プログラム 一覧

| 区分 | No | 部局 | 事業名 | 訪問国・地域 | 派遣人数 | |
|-------|----|-----------------|--|----------|-------------|----|
| 一般型 | 1 | 人文社会科学部 | 香港における県産りんごの現地調査と試食販売 | 中華人民共和国 | 教員1、学生6、一般1 | 8 |
| 一般型 | 2 | 教育学部 | 韓国・仁川市における旧日本人居留地を中心とした景観整備に関する調査研究 | 大韓民国 | 教員2、学生4、一般2 | 8 |
| 一般型 | 3 | 保健学研究科 | アメリカの高度実践看護活動及びシミュレーション教育体験 | アメリカ合衆国 | 教員2、学生4、一般1 | 7 |
| 一般型 | 4 | 地域社会研究科 | 加工用りんご収穫機械化プロジェクト | ドイツ連邦共和国 | 教員1、学生3、一般3 | 7 |
| 学部横断型 | 5 | 人文社会科学部 教育学部 | 台湾人観光客数増加のための弘前市ガイドブックの開発 | 台湾 | 教員2、学生8、一般1 | 11 |
| 学部横断型 | 6 | 農学生命科学部 医学部 | 世界基準の医用システム教育カリキュラムの策定によるグローバル人材育成協働事業 | アメリカ合衆国 | 教員1、学生6、一般1 | 8 |
| 課題特定型 | 7 | 人文社会科学部 | 「弘前×ボルドー」プロジェクト：学生企業人協働シティ・プロモーション事業 | フランス共和国 | 教員2、学生3、一般1 | 6 |
| 課題特定型 | 8 | 農学生命科学部 | 弘大生・若手生産農家による台湾向けりんご加工品の販路開拓プロジェクト | 台湾 | 教員2、学生5、一般2 | 9 |

計64

「『弘前×ボルドー』プロジェクト：学生企業人協働シティ・プロモーション事業」では、学生と地元企業の技術者によるチームが結成され、フランスのボルドーにあるMAISON DU JAPON（日本館）にて、弘前の地域資源発信イベントを開催した。イベントでは弘前市の物産品や観光関連冊子等の展示会及び津軽こぎん刺しワークショップが行われた。参加学生は、現地住民との交流、アンケート調査やインタビュー、現地日本語教室の学生へのインタビューを通して、現地に関心が寄せられている分野及び観光客のニーズ、弘前（青森県）に応用できる施策についてアイデアを得るとともに、帰国後もSNSを通じてフランスとの交換学習を意欲的に行うこととなった。同行した地元企業の技術者にとっても、現地のプロならではの貴重な指摘や助言から、津軽伝統工芸の販路開拓に関してヒントを得ることができ、企業人との協働プログラムならではの成果を得ることとなった。これらの活動を通して現地での弘前への関心が高まり、さらなるインバウンドが期待される。



弘前市物産品 展示会の様子



津軽こぎん刺しワークショップの様子

2. 学生海外PBLプログラム

本学学生が留学先大学学生と連携して、共通課題に関するショートPBLを学生自らが企画・実施した。平成28年度のプログラムは以下のとおり。

■ 平成28年度 学生海外PBLプログラム 一覧

| No. | 部局 | 事業名 | 訪問国 | 派遣学生 |
|-----|---------|--|---------|------|
| 1 | 教育学部 | メイン州立大学 異文化コミュニケーション集中講座 | アメリカ合衆国 | 12 |
| 2 | 教育学部 | アメリカの先進的農業事例から地域の農業を考える | アメリカ合衆国 | 4 |
| 3 | 人文社会科学部 | 「地域を担う人材育成と地域活性化のモデルの構築」を題材とした国際交流PBLプログラム | 大韓民国 | 8 |
| 4 | 農学生命科学部 | 食と農のグローバル化対応人材育成プログラム | 中華人民共和国 | 5 |

計29

「食と農のグローバル化対応人材育成プログラム」では、日本産、青森県産農産物・食品の競争力を見出すため、野菜・加工食品の最大輸入相手国である中国の日系食品企業において研修を実施し、具体的な取組を把握するとともに、弘前市及び津軽地域で生産される農産物・加工食品が対抗していくための課題等について調査した。また、本学の大学間交流協定校である青島農業大学の学生・教員と共同参画によるワークショップを開催し、日中間における農林水産業・食品の生産・流通・消費の在り方について理解を深めた。

実際に現地に赴き、聞き取りや調査を行うことにより本学学生のグローバルマインドが涵養され、近年は参加学生による関連業種への就職希望が増えるなど、農業・食品関連産業の国際化対応を担う人材育成につながった。



3. グローカル人材育成推進事業

平成29年3月10日(金)、弘前市長、弘前商工会議所及び企業関係者(寄附者)を招待し、「学生市民等協働プログラム」と「学生海外PBLプログラム」の成果発表会を行った。

参加学生による取組成果の報告、また、海外研修等で得た成果をもとに、地域活性化につながる情報やアイデアを弘前市へ提言するなど、地域との連携強化、そして自治体、市民、企業人と大学との知識共有及び地域に必要なグローバル人材の育成事業に大きく寄与した。

平成28年度
弘前大学グローバル人材育成事業
成果発表会

平成29年3月10日(金) 13:30~17:00

第1部：弘前大学グローバル人材育成事業成果発表会
●ホテルニューキャッスル NOVA 2階 曜の間

第2部：寄附者との茶話会
●ホテルニューキャッスル本館2階 曜の間

入場無料

弘前市及び市民・企業様からご支援をいただき、弘前大生が海外研修を行いました。このたび、海外研修を行ったグループによる成果発表会を行いますので、皆さまぜひご来場ください！！

お問い合わせ 弘前大学国際連携本部
TEL: 0172-09-3114 E-mail: jsh114@hiroaki-u.ac.jp HIROSAKI UNIVERSITY



派遣グループによる成果発表



質疑応答・意見交換